

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300214		
法人名	医療法人むつき会		
事業所名	Care hill's だん槃		
所在地	福島県郡山市富久山町久保田字上野147-1		
自己評価作成日	平成29年11月10日	評価結果市町村受理日	平成30年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成29年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体が医療法人の介護施設であることで、日々の健康管理においては、法人内の協力医療機関との連携が密に取れております。さらに、併設の小規模多機能型施設と一緒にありますが、常勤看護師が詰めているので、急な体調変化や、突発的な事故が発生した時なども、安心していただける体制にあります。また、施設構造が平屋建てになっているため、防火防災には避難体制が容易にできる。小規模の施設利用者との行き来が出来て、利用者さん同士の交流も盛んになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1.事業所では利用者の外出支援を進めており、初詣や公園散策、牧場見学、地域の芸能会見学、史跡公園での芋煮会や花見等を楽しんでいる。事業所のベランダから見る景観は見晴らしが良好なため、お茶会や日光浴等を楽しんでいる。また、菜園では季節の野菜や草花を栽培し利用者の外気浴支援につながっている。
 2.管理者を中心に職員間のコミュニケーションが円滑に図られており、全職員が明るく笑顔の絶えない家庭的な雰囲気のある事業所である。法人では職員の資格取得支援制度が確立しており、資格取得時には報酬制度もあり資質向上にもつながっている。
 3.事業所は看護師が常駐し協力医療機関医師との連携で利用者の健康管理を支援し、家族の安心にもつながっている。また、医師・看護師・全職員がチームを組んで看取り介護を実践し今年度2件の実績がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で理念を唱和し、理念を共有できるようにしています。また、名札サイズの理念カードを作成し、常に携帯して確認出来るようにしています。管理者は、わかりやすいようにスタッフに説明しています。	法人の「運営理念」をもとに、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を昨年新しく作成した。利用者と事業所が地域と連携してコミュニケーションを図り信頼関係を築き家族的な生活が送れるよう支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年町内会に加入し、事業所の存在が地域の方々に幅広く知っていただけるようになりました。お花見や月ごとの一斉清掃・廃品回収等に参加しています。夏祭りでは、町内会の方々と一緒に企画して実行いたしました。	町内会活動(廃品回収・清掃活動・地域主催のお花見等)を通して地域住民と交流している。「ケアヒルズ夏祭り」には地域住民・民生委員・ボランティア(曲芸・楽器演奏・マジック等)多くの参加があり、毎年盛況に開催されている。また、ヘアメイクカレッジの学生の訪問時には利用者全員がメイク、ネイル等をしてもらい、楽しいひと時を過ごしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会のお花見には「介護に関するセミナー」を開催しましたが、その際に、事業所のパンフレット等を渡して介護保険制度・施設別等の説明をしています。また、気軽に介護に関するあらゆる相談に来ていただけるよう説明しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	毎回、事業所内で発生した事故等の事例について原因や改善策について報告し、参加メンバーから改善策などの提案をいただき、現場に伝えフィードバックし、活かしています。	運営推進会議は年間を通して定期的に開催され、併設の小規模多機能型事業所と合同で開催している。委員の選任は地域に密着した多様な人選から多くの参加者を得ている。会議では事業所運営に関する事項等について議論されており、議事録の記載も詳細で日々の事業所運営に活かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	富久山地域包括支援センターの職員の方に毎回運営推進会議に参加して頂き、事業所の運営状況を報告しています。ここ一年では、包括からの相談案件が着実に増加しています。また、市の相談員が月2回以上見られ、利用者様の状況や、職員・施設の取り組みを見ていただいています	行政職員とは、福祉事業全般にわたり連携をしている。特に利用者の現状報告や制度の変更時には連絡を取り合い指導を受けている。生活保護の利用者が入居した場合には生活支援課職員との連携を図っている。また介護相談員も受け入れている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関に施錠はせずに、解放しています。身体行動を抑制することではなく、転倒等のリスクが高い入居者様には見守り・声かけの強化で対応しています。	「身体拘束の弊害」については、全職員が研修を通して共有しており、日常の業務で実践している。「言葉による拘束」の弊害についても職員間で注意し合う等利用者への声かけには日々のケアで実践している。日中玄関の施錠は無く、職員の見守りで対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年職員を「虐待の防止」関連の研修会に参加させています。また、身体だけではなく、スピーチロックの危険性を説明し、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ある程度一部の職員は理解していますが、十分な話し合いや、活用の有無の検討はしていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書、リスクの説明書を活用し、丁寧に説明しています。また説明後にも不安や疑問点、説明不足の点等を尋ね確認をして納得して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度の運営推進会議に参加して頂き、運営や入居者処遇に関しての意見・要望をくみ取っています。そして、それらの改善につなげています。	家族の訪問時や利用者の状況報告等の機会を通して、家族の意見や要望を聴取している。事業所では月例の「全体会議」で検討し、家族には丁寧に説明して理解を得ており、事業所運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議の終了前と、年に3回の個別面談時にキャリアパスに基づき、各職員の意見や提案を聴くようにしています。改善出来るものは実行して改善しています。	管理者は日常の業務の中で職員とのコミュニケーションに心がけ、意向や要望を聴取したり個別面談を実施している。全職員が何でも話せる体制になっており、職員の意見や要望は「全体会議」で検討している。課題によっては法人に上申している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の経営理念を職員に浸透させ、毎月の事務局での会議の冒頭で、理事長からやりがいをもち自己実現を可能にする職場にするように指示が出ています。各職員が向上心を持って働いています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会は、毎月開催されておりかなり参加しやすく改善されてきています。また、法人外部研修会も参加しています。介護福祉士の資格取得等に関しても法人を挙げての協力体制が出来ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会に積極的に職員を派遣して、交流し情報交換や意見交換をすることが可能になるように取り組んでいます。また市役所主催の意見交換会にも積極的に参加しています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時のアセスメントには、本人が話しやすい雰囲気をできるだけ作り、不安なこと・要望等に耳を傾けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査や最初の担当者会議の時に、ご家族やご本人から十分にお話を聞いて、不安等を取り除く努力をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体状況はもちろんのこと精神面も含め、何が必要なのか多職種間でカンファレンスを行い検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存能力を大切に、出来ることは何かと常に考えて、出来るだけ身の回りのことを行って頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご本人の様子をお伝えしてご本人とご家族の絆が途切れないように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的にご本人の様子をご家族に連絡してご本人とご家族の絆が切れないよう、レクリエーションの開催の案内する際等を利用して支援に努めています。	友人、知人の訪問があり、これまでの関係が継続できるよう支援している。また併設している小規模多機能型居宅介護事業所の利用者とは日常的に交流している。家族の協力により外食や墓参りなどの支援もしている。理美容院の利用は近年近所の理美容院の訪問を受け入れており、新しい馴染みの関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、相性の良い方、悪い方を見極めながら、食事の席を考えて、楽しい時間が送れるように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、ご本人やご家族の相談にのり支援していけるように所長・ケアマネを中心に心がけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人はもちろん、ご家族様からの聞き取りにも力を入れ希望や意向を取り入れています。また、意思の疎通が不十分と思われる場合は、ご本人の生活歴などを十分に考慮して検討しています。	日常のケアの中で利用者の些細な仕草や会話の中から意向や要望の把握をしている。月例の「ミーティング」や朝夕の申し送り時に職員が情報を共有しケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申込みのアセスメントをはじめ、入居後もご本人やご家族からの情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活する中で、様々な気づきを申し送りやご本人の会話で得た情報を共有し、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成や見直しについては、担当ケアマネが家族や介護スタッフから思いや意見を聞き出して、それらを踏まえて計画を作成しています。	利用者は併設する小規模多機能型居宅介護事業所の利用者が移行してきているので、事前調査は実施済みであり、それまでの経緯をもとに介護計画を作成している。利用者の急変時には、医師・看護師・計画作成担当・職員等で検討し、随時計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、事細かに取っています。その記録に目を通すことにより、職員間での情報の共有を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病気・体調不良時は、協力医療機関までの受診助助を行っています。また生活必需品の買い物にスタッフが出かけて支援しています。このように多機能化に努力しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は十分になされているとは言えない状況であり、把握することとそれらをどう繋いでいくかが課題であります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、かかりつけ医をどうしたいかの考えをお聞きしています。協力医療機関を希望された場合は、平常時は2回／月の往診を受けられるように支援しています。以外の医療機関にも看護師が必要に応じて連絡を取り合い情報を送りながら受診していただいています。	かかりつけ医の受診は家族の同行を基本にしているが緊急時等は職員が同行することもある。受診時には看護師から家族に対して利用者の状況などを伝え受診時の参考にしてている。受診結果は事業所に報告を受け双方で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活や介助の中で得た気付き・情報を、朝夕の申し送り以外にも随時看護師に報告し、看護師が中心となってかかりつけ医に相談し、場合によっては受診に繋がっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は、入院先のソーシャルワーカーさんと連絡を取り合い、退院の見込み時期や現在のADLといった情報を集め、退院時の受け入れがよりスムーズに進むようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	新規の入居時に、「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、理解をしていただいています。また、実際の看取り期が近づいた場合は、再度かかりつけ医とのやり取りを中心に、介護計画の見直しもして、だん鑠として出来る事を十分に説明しながら、支援していくようにしています。	利用開始までに「重度化した場合における（看取り）指針」及び「看取り介護についての同意書」を説明し理解を得ている。利用者の急変時には再度家族の意向を確認し、医師・看護師・職員が連携して対応しており、看取り支援体制を整備している。今年度2件の看取りを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡先、受け入れ要請病院に関しては、個人ファイルを見ればすぐにわかるようにしてあります。看護師が主導し、介護職員へAEDの初期対応を教えています。すべての職員が実践力を身に付けているとは言えません。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の訓練を実施しています。内1回は夜間を想定した訓練です。地域の民生委員や住民の方々にも一緒に参加していただき、水消火器の使用方法も実践していただいております。	事業所では年2回民生委員や近隣住民の参加を得て総合防災訓練を実施している。消火訓練・通報訓練・避難訓練・自主点検等も実施しており、各訓練時のタイムスケジュール・避難経路・避難訓練経過等を作成し、全職員が共通認識のもと訓練にあたっている。災害時を想定し水・乾パン・米・レトルト食品や衛生品・シートなどを備えている。	隣接している小規模多機能型居宅介護事業所と合同で実施しているが、各事業所ともそれぞれ立地条件が違うので、あらゆる災害を想定した事業所独自の「初期対応」について全職員で検討して欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間として、人生の先輩として、人格を尊重しての声掛けや呼びかけを行っています。	職員は研修を通して、利用者の人格や尊厳を損ねることのないよう認識を共有してケアにあたっている。利用者の個人情報書類等は施錠可能なキャビネットに保管している。毎月発行される「だん槃便り」に掲載する写真等は事前に利用者及び家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の入居者様への声掛けは、「AかBどちらにしますか？」や「〇〇しましょうか？」という質問形式を多用して、なるべく自己決定できるようにわかりやすく工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本当は、何をして過ごしたいのか、何か遠慮して言わないのではないのか、常に入居者様の立場に立って、するようにしています。午後の集団でのレクリエーション等に、さらにその人らしさを織り交ぜる事を検討していきたいと思います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな色などの好みを把握して、その日の洋服の組み合わせを提案するなどのアドバイスをしています。二月に一度の訪問理容時にパーマやヘアカラーを希望される入居者様がいらっしゃるのので支援しています。また10月は、ヘアメイクのボランティアをお呼びして、メイクやネイルメニュー・レクリエーションをしていただき喜ばれました。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事前の準備(テーブル拭きや、マットの配布、おしぼり配布等)のお手伝いをしていただき、食事をするという気分を高めてもらっています。行事やレクの際の食事は入居者様と一緒に作り盛り付けていただくようにここがけています。	食事は配食納入業者を利用しているが、毎週金曜日と月2回の行事食は利用者の希望を取り入れ、事業所で調理している。食前食後の簡単な準備作業や後片付け等は職員とともに作業をしている。利用者の体調によりおかゆや刻み食にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは、業者の管理栄養士にお願いしています。水分摂取量と食事の摂取量は毎回記録に残しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、入居者様の状態に応じた歯ブラシや口腔ケア用のスポンジ等を使用しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全体管理として「排泄チェック表」を作成し、一日の排泄パターンを見て、トイレの声かけ誘導を行い、トイレでの自発的な排尿が出来るように支援しています。	利用者の状態にもよるがトイレでの自然排泄を目標に誘導している。「排泄チェック表」を活用し利用者個々の排泄パターン・仕草や時間等から察知し、静かにトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最終排便を常に管理して個別的な工夫を行い、センナ茶にオリゴ糖を混ぜて飲んでいただいたり、ご家族の協力のもと乳製品を摂っていただいたりし予防しています。最終的には、下剤の服薬で対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大枠での入浴予定を立てたおき、当日は入居者様の体調や希望に合わせて、時間をずらしたり日を変更したりしています。季節のお風呂（ゆず、菖蒲等）で気分転換も行っています。	利用者の希望により入浴ができる体制になっている。入浴拒否者には担当職員・話題・時刻等を巧みに変えながら誘導し、入浴に繋げている。菖蒲湯・ゆず湯等季節を感じられる変わり湯も楽しんでいる。浴室は個浴と機械浴があり利用者の希望や状況により使い分けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の習慣がある方は昼食後に午睡していただきます。また、体調に応じて無理する事無く居室で横になっていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、看護師が管理しています。服薬目的や用途は、看護師からきちんと申し送りがされています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活動作の低下がみられていますが、一人ひとりにおしぼり配りや、ランチョンマット配布、食器拭きなどをお願いしています。天候をみて、ウッドデッキでの日光浴やお散歩を楽しんで頂いています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見てウッドデッキでの日光浴やお散歩の声掛けをしています。また、外出レクを2ヶ月に一度の頻度で行い、普段行けない場所にお出かけする支援をしています。	好天時には事業所敷地内や事業所周り等の散歩を楽しんでいる。近隣商店での買い物等日常的な外出支援や、ウッドデッキでお茶や日光浴等で気分転換を図っている。また、季節行事として神社への初詣や事業所行事として逢瀬公園・開成山公園等へのドライブを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の日常生活ではお金を使う機会がほとんどありません。買い物や外食にお出掛けした時には、自分でお金をお支払いして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話を掛けたい」という訴えがあった場合、スタッフが電話をかけて繋がってからご本人に代わるようにしています。手紙やはがきのやりとりは、ご家族からのお手紙・お葉書を手渡しでお渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部の温度管理、照度管理は適切に配慮しています。ホールの壁には季節に応じた貼り絵等を掲示し、季節感を味わえるようにしています。	机と椅子のエリア・畳のエリアがあり壁には利用者の作品が飾られている。廊下から南面にベランダがあり、災害時の避難には有効なエリアである。庭には菜園があり、野菜や花が栽培され利用者の楽しみになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のこ上がりで新聞を読んだりするときは、独りになれています。またTVの前のソファでは気の合う入居者様同士でくつろいでいただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	居室は、利用者様とご家族の希望に沿って安心して過ごしやすい空間にしています。利用者のタンスや衣装ケース、ぬいぐるみ、ピアノ、写真等を置いていただき居心地良く暮らして頂いています。	居室はフラットフロアであり、介護ベット・ナースコール・換気扇・エアコン・湿度計・洗面台が標準設置されている。利用者は整理筆筒・ポータブルトイレ・電子ピアノ等好みのものを持ち込み各自個性的な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事後の下膳のお手伝いなど、出来ることがわかるので、流し台と食事席の距離を適切かどうか等の工夫をしています。また、ホール内の手すりを利用した歩行訓練も実施しております。途中には椅子を置き、利用者が一休み出来るような配慮もしています。		